SONY

4-161-441-01(1)

IC RECORDER

 Printed in China

はじめに

本書はICレコーダーをより便利にお使いいただくための冊子です。

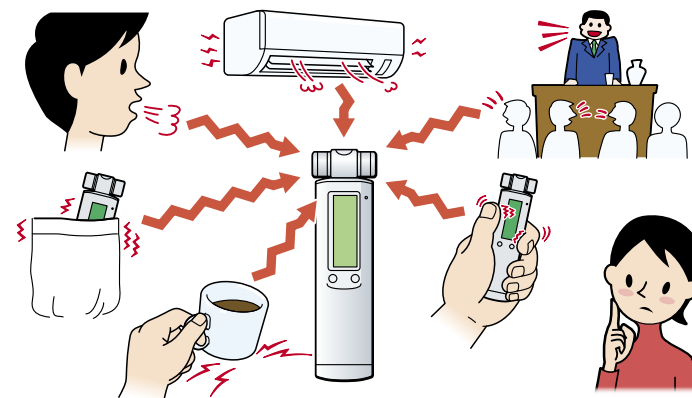
- ノイズを低減するための対処方法
- 状況に応じた録音方法

などを紹介していますので、「うまく使いこなせるか不安だ」という方も、「もっともっと使いこなしたい」という方もぜひ参考にしてみてください。

ためし録りのススメ

部屋の大きさ、話をする人の声の大きさ、パソコンを近くで使用しているのかどうか…。
録音環境は人によってさまざまです。
望まれる「音質」も録音対象によって変わってきます。
ためし録りは、大切な録音を失敗しないため、また、理想の音質に録音環境を整えるために大変有効なものです。

ノイズとして録音される可能性のある音について

ノイズの原因となる音

ICレコーダーには、音声以外のさまざまな音が録音されてしまうことがあり、ノイズとして聞こえてしまいます。

- 本機に触れたときに入る音（タッチノイズ）
- 衣服と擦れる音（胸ポケットにいれている場合）
- 振動音（机やピアノなどに置いた場合）
- エアコン、プロジェクター、パソコンなどの動作音
- 周囲の余計な音（講演会や授業の場合）
- 口元で録音したときにマイクにあたる吐息（吹かれ音）
- 長時間録音モード（LPモードなど）で生じるノイズ

録音されるノイズを軽減するには

- 録音中に本体に触れると、擦れ音として録音されてしまう場合があります。録音が終わるまでは、なるべく本体に触れないようにしてください。
- ノイズの原因となっている音から遠ざけるか、取りのぞいてください。
- 状況に応じた「録音モード」を選んでください。
  ノイズが気になる場合は、録音モードを高音質モード（STモード、HQモードなど）に設定することをおすすめします。
- 状況に応じた「マイク感度」を選んでください。
  周囲の音がノイズとなって聞きづらい場合は、マイク感度の設定をさげてみてください。
- 「ローカットフィルター」機能*を「ON」にすると、エアコンの風の音やプロジェクター、パソコンなどのファンの音が軽減されて聞きやすくなります。
  *一部の機種のみ

搭載されている機能、「録音モード」、「マイク感度」の設定方法については、付属の取扱説明書をご覧ください。

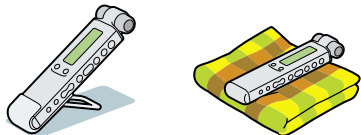
裏面の「状況に応じた録音方法」もご覧ください。

(1)

状況に応じた録音方法

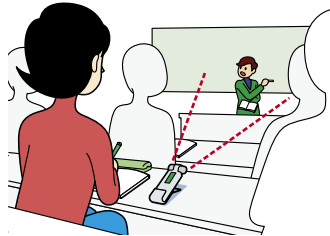
会議録音

付属または内蔵スタンド*を使って接地面を少なくすることで机から伝わる振動音などのノイズを低減できます。
*一部の機種のみ

スタンドのない機種の場合は、ハンカチでも代用できます。

発表者に近い場所で録音してください。

授業・講演会録音

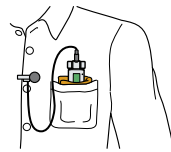
指向性マイクを使用することで、録りたい音声を狙って録音します。
指向性マイクのスイッチがある機種はスイッチをONにしてください。
指向性マイクのスイッチがない機種は別売のマイクを使用してください。

お買い上げの製品のより詳細な録音設定については、ICレコーダー・カスタマーサポートページをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/ic-rec-support

メモ録・口述録音

録音するときは、マイク部に息がかからないように口のやや横に本体を近づけましょう。

ご注意
本機を手に持って録音するときは、本機に触れた時のノイズ(タッチノイズ)が録音されないようご注意ください。

胸ポケットでの録音

ハンカチなどで本体を固定すると衣服と擦れた時のノイズが減らせます。

タイピンマイク(別売)を使うとさらにノイズが減らせます。

電話録音

電話録音用マイクECM-TL1(別売)を使って自分と相手の声を録音できます。

歌やカラオケの録音

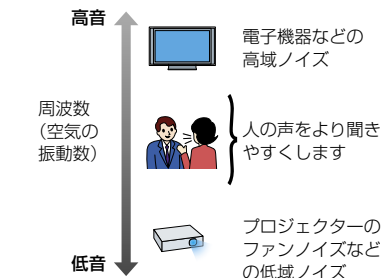
ステレオ録音モードで臨場感のある録音ができます。
突然の大きな音でもリミッター機能*で録音レベルが自動調節されます。
専用ソフト*を使えばパソコンでCDにも記録できます。
*一部の機種のみ。

楽器録音

ICレコーダーをピアノの上にのせて録音すると、ピアノを弾くときの振動も一緒に録音されてしまいます。ICレコーダーを楽器の近くに置いて録音してください。
「マイク(録音)感度」を「音楽」にすると、ひずみの少ないメリハリのある録音ができます。*
*一部の機種のみ

録音した音声を聞きやすくする方法

再生するときに「ノイズカット」機能*を「ON」にすると、音声帯域には影響が出ない低域と高域のノイズを低減することができます。
*一部の機種のみ

高音
周波数(空気の振動数)
低音
電子機器などの高域ノイズ
人の声をより聞きやすくします
プロジェクターのファンノイズなどの低域ノイズ

設定方法については、付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意
録音した音声の状態によっては、効果に違いがでる場合があります。